

ミシマサイコの生産安定技術開発

背景と目的

薬用作物のミシマサイコは、国内生産拡大への期待が高まっていますが、作柄が不安定で収穫量が低いことが最大の課題となっています。そこで、2年栽培株の収穫作型における生産安定技術を開発し、収量20%向上を実現するとともに、栽培技術指針・マニュアルを作成します。

研究の内容および成果

ミシマサイコは播種から出芽までの期間が約1か月以上と長く、雑草との競合による初期生育不良が生産を不安定化する要因となっています。そこで、播種後のマルチ資材やべたがけ資材の活用による発芽率の向上および初期生育促進技術の開発に取り組みました。

籾殻や白黒ポリマルチ被覆と不織布べたがけの組合せで、発芽率が約2.8倍に向上しました（表1、図1）。また、播種後の畝に白黒ポリマルチを被覆すると、雑草発生量が約7割減少し、除草時間が約半分になりました（表2、図2）。

表1 マルチ資材および不織布の被覆処理とミシマサイコの発芽率

試験区	発芽率(%)
白黒ポリマルチ	54.9
籾殻4mm厚	55.1
籾殻2mm厚	40.5
無処理	19.8

× 不織布

注) 播種日:平成29年2月28日、発芽率調査日:平成29年4月27日

栽植密度等:畝間80cm、株間10cm、2条千鳥、乾燥種子1カ所5粒播き
発芽率:調査時発芽本数/播種粒数



図1 籾殻被覆とミシマサイコの発芽状況

表2 マルチ資材による雑草防除効果

試験区	雑草発生量	対無処理比	除草時間	対無処理比
	Kg/10a	%	h/10a	%
白黒ポリマルチ	40	31	61	46
籾殻4mm厚	58	46	70	53
籾殻2mm厚	80	63	111	84
無処理	128	100	132	100

注) 播種日:平成29年2月28日、播種後に不織布被覆

除草日:平成29年4月27日、播種後の除草剤は不使用

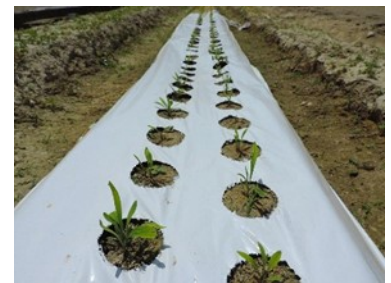


図2 ポリマルチ被覆とミシマサイコの生育状況

生産者のみなさまへ

播種後のマルチやべたがけ資材の被覆処理で、ミシマサイコの発芽率向上および雑草発生抑制効果が確認できました。今後は、試験圃場や生産者圃場でこれらの効果を検証するとともに、さらに技術開発を進め、ミシマサイコの実産安定につなげます。